

# 2025年度「海と灯台利活用チャレンジ事業」募集説明動画

## ○アジェンダ

- ①「海と灯台プロジェクト」の紹介
- ②「海と灯台利活用チャレンジ事業」とは
- ③募集要項の説明
- ④応募資料について
- ⑤その他



# 海と灯台プロジェクトとは



灯台は、船舶交通の安全を支えるインフラ施設であるばかりでなく、  
日本の近代史を知るうえでの重要な文化資産です。

いくつかの灯台が国の重要文化財に指定されるなど、灯台への関心が高まっていますが、  
海外に比べ、灯台を利活用する需要が高まっているとは言えません。



**灯台を中心に地域の海の記憶を掘り起こし、  
地域と地域、異分野と異業種、  
日本と世界をつなぎ、  
新たな海洋体験を創造していくプロジェクト** です。



# 「海と灯台プロジェクト」の目的・趣旨

1. 航路標識としての役割が変化した灯台の存在意義や継承理由を正しく伝える
2. 灯台が果たしてきた地域固有の役割や機能、存在価値を物語化する
3. 灯台が持つ多様な価値と利活用の可能性について、戦略的に取り組む

→灯台を訪れる人を増やし、海や周辺地域への興味関心を高める

# 「海と灯台プロジェクト」の実施体制



主催

一般社団法人 海洋文化創造フォーラム

共催

日本財団 海と日本プロジェクト

協力

海上保安庁

灯台立地エリア38都道府県のテレビ放送局

「海と灯台のまち」参画自治体

運営

「海と灯台プロジェクト」事務局

# 海と日本プロジェクトについて



「海と灯台プロジェクト」は  
日本財団「海と日本プロジェクト」の一環です。



「さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、時に心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海。  
そんな海で進行している環境の悪化などの現状を、子どもたちをはじめ全国の人が「自分ごと」としてとらえ、  
海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、オールジャパンで推進するプロジェクトです。」

「海と日本プロジェクト」は、

灯台

海の民話

海と食

海の安全

海ごみ

etc

様々なテーマを通じて、海への興味関心を高め、アクションを促します。

# 海と灯台利活用チャレンジ事業とは



「海と灯台利活用チャレンジ事業」は、灯台利活用に関する単発の試験的な企画などを広く募集し、灯台利活用の可能性を広げる公募事業です。灯台を訪れる人を増やし、海や周辺地域への興味関心を高めることを目的とした単体または複数の灯台を活用する事業企画を対象とします。

※「新たな灯台利活用モデル事業」は、数か月間にわたって、灯台や周辺地、その利活用事業に関する詳しい調査検証を行い、実施体制構築や資金調達手法の検討をする事業です。「海と灯台利活用チャレンジ事業」は単発、かつ試験的な企画を支援しています。（新たな灯台利活用モデル事業の入門編としての位置づけでもあります。）



# 対象となる事業例

## <事業例>

- ① 灯台および灯台周辺地の魅力を生かしたイベント
- ② 灯台の価値、役割、魅力を伝える講座、シンポジウム
- ③ 灯台にまつわる体験観光プログラム、アクティビティ

上記は、あくまで、「事業例」です。

当事業の趣旨・目的に合っていれば、どのような企画でも問題ございません。  
今までにない新しい灯台利活用のアイデアもお待ちしてます。

## ※企画のポイント※

- ・「海」と「灯台」をメインに。住民や観光客が灯台に行く・興味を持つきっかけを作る。
- ・継続は必須ではないが、成果物やコンテンツが残って活用されたり、事業実施によって培われた連携が次につながるような仕掛けがあることが好ましい。

# 具体的な事業例

## ① 灯台および灯台周辺地の魅力を生かしたイベント



### 御前崎灯台（静岡県御前崎市）

「御前崎灯台150周年記念イベント 風と灯台フェスティバル」を開催  
風車を使った灯台周辺の装飾、メッセージパネルの制作などを行う



「風の街」ともいわれる御前崎の「風」を視覚的に感じられるアイテムとして、風車をイベントのシンボリック的存在に設定。当日は500名ほどが来場。来場者と一緒に1000個の風車を作成し、灯台周辺を装飾した。

<イベントレポート>

<https://prt-times.jp/main/html/rd/p/000003091.000077920.html>



# 具体的な事業例

## ②灯台の価値、役割、魅力を伝える講座、シンポジウム



### 尾道灯台・大浜埼灯台（広島県尾道市）

灯台クルーズ×推理ゲームを組み合わせた**モニターツアー**と、**シンポジウム**の実施



近年は“サイクリストの聖地”としても知られる「尾道」。しかし、その反面、尾道の宿泊施設の利用率は低下している。尾道の灯台群を観光資源として見つめなおすと共に、体験型コンテンツを開発することで観光需要の喚起を図り、今後の活用についても検討を行った。

<イベントレポート>

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000003131.000077920.html>



# 具体的な事業例

## ③ 灯台にまつわる体験観光プログラム、アクティビティ



### 三国防波堤灯台（福井県坂井市）

夕陽百選に選ばれた絶景と港町の歴史をたどるガイドツアー「三国 灯台まちあるき」の実施



北前船の寄港地として栄え、北前船の出入りを助けるために築いた堤防「三国港突堤」と「三国防波堤灯台」を中心に、「荒波の浪漫（一攫千金）を追い求めた北前船の男たちの歴史」を語る。さらに、ガイドの内容は、地元Vtuberとコラボした音声ガイドとしても残した。

<イベントレポート>

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000003085.000077920.html>

# 具体的な事業例 その他



## 沖縄県

残波岬灯台

### 燈の守り人 幻想夜話 「残波岬灯台」舞台

ボイスドラマ『燈の守り人 幻想夜話』の残波岬灯台のストーリーを地元の劇団と連携して舞台化し、那覇市内の劇場で上演。残波岬灯台にまつわるエピソードを臨場感たっぷりに描き出した。



### 燈の守り人 幻想夜話 上映会&コラボグッズ販売

イルミネーションを施した灯台の外壁に、ボイスドラマ『燈の守り人 幻想夜話』の映像を投影。音響や照明も工夫し、物語の幻想的な雰囲気を演出した。観光客や『燈の守り人』ファンが多数来場。



※「燈の守り人」とは、全国の灯台を擬人化し、物語を通じて、その歴史・文化価値を創出するプロジェクト



日没後も多くの人が来訪

今までにない新しい灯台利活用のアイデアもお待ちしています。

# 募集要項:スケジュール

## <スケジュール>

応募〆切	2025年5月30日(金)
採択結果の通知・契約手続き	2025年6月
事業実施期間	2025年7月～2025年11月30日(日) ※1
委託費の支払い	2025年8月
事業完了日	2025年11月30日(日)
事業完了の書類等提出	2025年12月 ※2

※1 審査の状況等により、開始日は前後する

※2 事業完了の書類等とは、成果報告書、完了報告書・収支計算書、  
写真・動画データ、各種成果物等である。

# 募集要項：委託費・応募資格

## <委託費>

1事業あたり110万円(税込)

※協力金の振込先の口座は、コンソーシアム名義ではなく、幹事社名義の口座でも構いません。

## <応募資格>

幹事社1社(法人格を持つ企業または団体、地方自治体、観光協会、地域活性化事業等の実績を持つ任意団体のいずれか)と構成員1者以上からなるコンソーシアム。

## <コンソーシアムを求める理由>

・1つの団体からの知見だけではなく、異業種・異分野を巻き込み、  
多種多様な視点を踏まえて、灯台の利活用の可能性を最大化するため。

※コンソーシアムのメンバーである必要はないですが、  
事前に、対象の灯台がある自治体と海上保安部との調整は済ませてください。

### △△△コンソーシアム

- <構成員>
- ・株式会社A
  - ・Bさん
  - ・C観光協会
  - ・D市
  - ・チームE

# 応募に必要な書類



## <提出物>

- ・申請書(指定フォーマットあり)
- ・事業費内訳(同上)
- ・申請内容補助資料(様式任意。仮説を設定した経緯、実施体制等がわかるもの)
- ・コンソーシアム協定書のコピー(様式任意。参考フォーマットあり。)

応募〆切: **5/30(金) 17:00**

# 応募に必要な書類: 申請書

## 【海と灯台利活用チャレンジ事業】

(1) 事業の背景

(2) 実施の目的

(3) 実施概要

※事業内容を判断する唯一の場所です。

「5W1H」を用いて、具体的にご記入ください。

※必要な許認可等がある場合、その進捗具合もご記入ください。

※広報的な戦略もある場合、その詳細についてもご記入ください。

# 応募に必要な書類: 事業費内訳



・青色セルのみに入力をお願いします。  
(灰色セルには計算式が入っています。計算式は崩れないようにしてください。)

・「科目」については、募集要項内、「10. 対象となる経費」から選択してください。  
また、「11. 対象とならない経費」も併せてご確認ください。

・事業費内訳のページ下部に「記入例」を用意しています。  
こちらを参考にしてお記入ください。

(事業費内訳 記入例)		
科目	金額 (円)	具体的な内容や単価、数 (記入必須)
会議費	110,000	シンポジウム会場使用料3.3万円、P A ・ モニター設置8.8万円
諸謝金	110,000	シンポジウム登壇の灯台有識者2名 (交通費含む)
委託費	308,000	・シンポジウム会場運営スタッフ人件費 (15,000×11人) ・記録撮影用カメラマン人件費 (55,000×1人) ・シンポジウム内で上映する動画制作費 (約10分の灯台解説動画、88,000)
印刷製本費	132,000	・シンポジウムで配布する小冊子100部の印刷 (22,000) ・ハワイエ展示パネル3枚 (110,000)
旅費交通費	11,000	高速道路代等
計	671,000	←自動計算 (注: 上限110万円)

## 10. 対象となる経費

対象となる経費は、海と灯台利活用チャレンジ事業の実施に必要な経費とする。

科目 (例)	内容
委託費	企画運営、調査研究など事業の一部を他に委託する費用
旅費交通費	事業を実施するために必要な出張旅費や交通費など
消耗什器備品費	事業に直接必要な機材や備品等の購入費
印刷製本費	ポスター・パンフレット等のコピー・印刷など
通信運搬費	郵送料、宅配便代など
会議費	会場借用料、会場設置費用など
諸謝金	外部の専門家に対する謝金
広告宣伝費	情報発信や事業告知等についてチラシ、ポスター、ウェブ等の制作・構築・発信に係る費用 ※原則的に媒体購入 (新聞・テレビ等の広告枠の購入) には用いることができない。
事業管理費	事業を実施する上で必要な事務局人件費・諸経費
雑費	少額かつ上記経費項目に含めることができない諸経費
建設費、設計費	建物の建設と設計にかかる費用 (既存建物の改修、新設いづれも可)

## 11. 対象とならない経費

- ・事業に直接関係ない経費
- ・旅費交通費でのファーストクラスやグリーン車などの特別料金
- ・会議費の範囲を逸脱し、社会連合上、接待交際費に当たるもの
- ・土地などの不動産購入費用、賃貸に係る敷金などの経費
- ・外構植栽工事などの付帯的工事費
- ・税金、保険料等の購入に係る諸費用
- ・自法人の収入と因果関係のある経費
- ・事業期間外に係る支出 (本申請に係る経費など)

# その他:「新たな灯台利活用モデル事業」



「新たな灯台利活用モデル事業」は、持続可能な灯台利活用事業の開発を実施する団体に対して資金面および企画運営の助言等のサポートを行う事業です。灯台を訪れる人を増やし、海や周辺地域への興味関心を高めることを目的とした単体または複数の灯台を活用する事業企画を対象とします。

<https://toudai.uminohi.jp/model-2024/>

- ▼2024年度:  
15事業を採択(助成および実施サポート)
- ▼2022年～2024年度累計:  
のべ38事業を採択(全国21灯台に関連した事業)

- ①調査検証コース 1事業あたり上限500万円(税込)
  - ②利活用実施コース 1事業あたり上限1,500万円(税込)
- ※いずれも、総経費に対する助成率は80%

詳しくは[こちら](#)

# その他：海と灯台ウィーク



## 海と灯台ウィーク(2025年11月1日(土)～8日(土))期間中に何らかのご協力を！

海上保安庁や「海と灯台のまち」参画自治体(60市町村)と連携し、  
全国の人々に「灯台にいこう！」と呼びかけるキャンペーンです。

皆様の地域でも、イベント実施や広報等の協力をして頂きますと幸いです。



### 海と灯台ウィーク × 海上保安庁関連イベント

「海と灯台ウィーク」開催にあたり、関連イベントを全国で実施予定。  
各地のイベントと連携し、オリジナル缶バッジをプレゼント！



### 海と灯台ウィーク × 市町村関連イベント

49市町村を「海と灯台のまち」として組織化し、今年はそのうち48市町村に「海と灯台ウィーク」のキャンペーンステーションを設置。キャンペーン・オリジナル缶バッジもしくはキャンペーン・オリジナルシールをプレゼントします。また各市町村に「海と灯台ウィーク」ポスターを頒布。「海と灯台のまち」が連携してキャンペーンを盛り上げます。



ポスター



オリジナル缶バッジ



オリジナルシール

# お問い合わせ先

ご不明な点がございましたら、お気軽にご連絡ください。

一般社団法人 海洋文化創造フォーラム  
海と灯台プロジェクト事務局

内藤香海・阪口大輔・山口健

[toudai@umi-nippon.com](mailto:toudai@umi-nippon.com)

080-9264-3366